

農業技術情報

平成23年9月16日
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝農業改良普及センター十勝東部支所
015-572-3128
JA 幕別町 54-2302
JA 札内 56-2131
日甜東部センター 54-2756
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育状況（幕別町 9月15日現在） （ ）内は平年値

作物名	生育良否	生育状況		生育期節・作業状況
馬鈴しょ	-			収穫始 9/2(8/31)
てん菜	やや良	根周 35.5(34.8) cm		
大豆	並	草丈 77.6(64.5) cm 葉数 9.6(8.5) 枚	m ² 着莢数 608.8(565.0)	
小豆	やや良	草丈 66.6(55.2) cm 葉数 12.6(9.9) 枚	m ² 着莢数 412.0(316.3)	
菜豆(金時)	-			成熟期 9/4(9/4) 収穫始 9/11(9/6)
牧草	-	草丈 35.8(31.7) cm		
飼料用 とうもろこし	良	稈長 276.3(269.5) cm		糊熟期 9/5(9/12)
ごぼう	並	根長 64.8(68.1) cm 根径 21.2(21.9) mm	根重 207.0(181.5) g	収穫始 8/31(9/2)
ながいも (マルチ栽培)	良	種子重 29.4(32.5) g 茎葉重 583.8(610.4) g 首長 24.0(22.1) cm	いも長 75.4(68.1) cm いも重 976.3(877.0) g いも径 57.1(60.8) mm	
たまねぎ	-			収穫始 9/7(9/15)

畑作

1 秋まき小麦

大雨の影響で収穫作業が遅れ、小麦のは種がずれ込むことが予想されます。は種期に応じた適正なは種量を心がけてください。過繁茂となってしまうと、春以降の施肥量調節も難しくなり、後半の生育にも影響します。表1を目安には種しましょう。

(1) 時期別のは種量

表1 は種時期とは種量

時期	地区別は種量(kg/10a)			千粒重(g)
	本部	南幕	種子	
早期 9/16~20	5~6 極端な早播きは避ける		避ける	36
適期 9/21~25	6~7	7~8	5~6	
晩期 9/26~30	8~9	9~10	6~7	
10月 10/ 1~7	9~10	10~11	-	

は種適期：「冬損に強い生育量」及び「倒伏を避け穂数確保」のため、越冬前の主茎葉数5葉（は種日～11月15日迄の積算温度470 となる日）を目標に、4葉～6葉を確保できる時期を適期と設定しています。

やむを得ず「晩期」を過ぎては種する場合、は種量をやや多めにします。ただし、「きたほなみ」は「ホクシン」と違い、は種量を増やしてもそれに見合う増収効果が期待できません。

(2) は種深度

は種が深すぎると出芽に時間がかかり（出芽不良や二段根）、十分な越冬前の生育量が確保できなくなります。

過度なロータリ掛けを避け、は種深度を2～3cmとしましょう。

は種床が軟らかくは種位置が深くなるときは、鎮圧してからは種しましょう。

凍上害が発生しやすい地帯では、やや深めには種しましょう。

(3) は種時の施肥量

越冬前に小麦が必要とする窒素量は3～4kg/10a程度です。過剰な基肥施用はコストの無駄や地下水汚染のほか、越冬後の追肥判断が難しくなるので適正量の施肥をおこなってください。

表2 は種時の施肥量（kg / 10a）

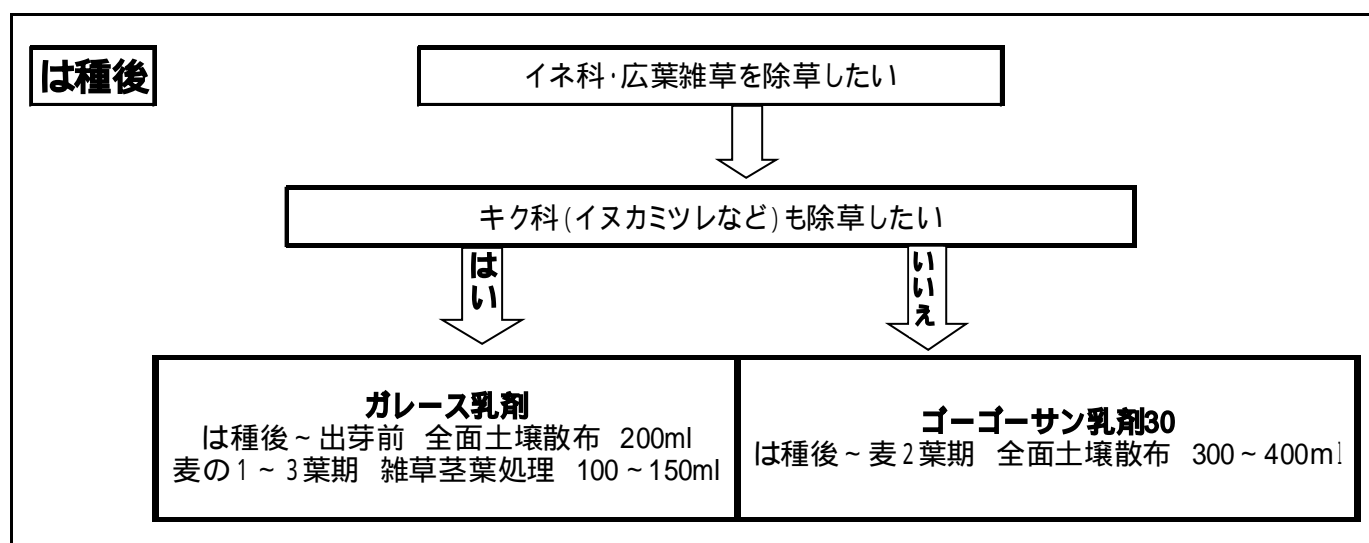
土壌型	低地土	泥炭土	火山性土	台地土
窒素	4	4	4	4
リン酸	12	14	15	14
カリ	9	10	10	9

野菜跡等土壌残存窒素が多い場合は、基肥窒素2kg/10a程度を目途に減肥する。

(4) 雑草対策（は種後）

連作ほ場を中心にイネ科雑草や越年生広葉雑草が目立ちます。イネ科雑草対策は今しかないので、適期を守って散布して下さい。

雑草の種類に応じた除草体系



2 小豆の適期収穫

本年は成熟期が早まっています。過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。収穫適期の目安は、「熟莢率」で判断します。

表3 小豆の収穫適期の目安（普及推進、H14）

区分	熟 莢 率
ピックアップ収穫	熟莢率100% = 完熟期(子実水分16~18%) から2週間以内
ダイレクト収穫	

3 てんさい

(1) 褐斑病防除

褐斑病が進展しつつあります。台風の影響で防除未実施のほ場、または発生が進んでいるほ場では、至急防除を実施してください。

薬 剤 名	使用濃度	薬 量 (g・cc)	水量ℓ/10a	収穫前使用日数
カスミンボルドー	800倍	125	100	収穫7日前
銅パーシン水和剤				

前回防除（プランダム）が未実施の場合

薬 剤 名	使用濃度	薬 量 (g・cc)	水量ℓ/10a	収穫前使用日数
プランダム乳剤 25	2,000倍	50	100	収穫7日前

(2) 育苗土の準備

来年用の育苗土には健全な土を用意し、年内に酸度を調整しましょう。
(粉の炭カルで pH6.0 に調整し、生石灰は使用しない)

4 心土破碎の実施

作土の膨軟化・暗きょ効果の向上には心土破碎が有効です。収穫の終わった畑は、晴天が続く時期を見計らって、心土破碎や広幅心土耕をおこない、根域が深く確保できるよう準備しましょう。

野 菜

1 長雨による病害の発生に注意

長雨で過湿条件が長く続いていることから、下葉の黄変とべと病が継続して発生しています。また、過湿と日中の気温低下により菌核病が発生しやすくなっているため、防除と排水対策を継続しておこなってください。

2 レタスの病害虫防除

(1) 発生しているべと病を抑える防除

9月以降、べと病が多発しています。また、春先に菌核病が発生した連作ほ場や隣接ほ場では、早めに菌核病の防除をおこなってください。

薬 剤 名	使用倍率	水量	安全使用基準		対象病害虫
		ℓ/10a	使用時期	回	
アミスター20フロアブル (治療剤)	2,000 倍	150	7 日前	4	べと病・菌核病
プレオフロアブル	1,000 倍		7 日前	2	ナガリ・I・ヨウムシ

散布水量を多くして、下葉までかかるようにして下さい。

3 キャベツの害虫防除

過湿条件が長く続いて、日中の気温低下により菌核病の発生が予想されます。9月中旬以降の生育は、ほとんどが結球した生育となっていますので、食害痕を残さない害虫防除をおこなって下さい。

(1) コナガ・ヨトウムシ・アブラムシ類の防除

薬 剤 名	使用倍率	水量	安全使用基準		対象病害虫
		ℓ/10a	使用時期	回	
アミスター20フロアブル (治療剤)	2,000 倍	150	7 日前	4	菌核病・株腐病
プレオフロアブル	1,000 倍		7 日前	2	コナガ・アムシ
スカウトフロアブル	1,500 倍		前日	5	アムシ・ヨトウムシ

スカウトフロアブルは、害虫に接触・速効性があり、食害痕を残さない。

4 はくさいの病害虫防除

(1) べと病と菌核病の防除

べと病が継続して発生しています。今後、過湿と日中の気温低下により菌核病の発生が予想されますので早目に防除をおこなって下さい。

薬 剤 名	使用倍率	水量	安全使用基準		対象病害虫
		ℓ/10a	使用時期	回	
アミスター20フロアブル (治療剤)	2,000倍	150	7 日前	4	べと病・黒斑病 白斑病
プレオフロアブル	2,000 倍		7 日前	2	コナガ・アムシ
スカウトフロアブル	1,500倍		前日	5	アブラムシ・ヨトウムシ

アミスター20フロアブルは、菌核病にも効果が期待される。

スカウトフロアブルは、害虫に接触・速効性があり、食害痕を残さない。

5 長雨による石灰欠乏対策

長雨によって過湿条件が長く続いています。葉先枯れや心腐れの石灰欠乏症状が発生しやすくなっていますので、結球していても葉面散布剤を防除時に混用して一週間間隔で2～3回散布して下さい。

(1) レタス・はくさい・キャベツの長雨による石灰欠乏対策

葉面散布剤（カルハード：散布濃度500倍）石灰のみ。

葉面散布剤（カルプラス：散布濃度500倍）石灰＋窒素が必要な場合。

(2) 過湿条件で下葉が黄変した生育の対策

湿害で下葉が黄変して生育不良となった場合は、液肥で生育回復を図って下さい。

e-トミ-105 (1-10-5) 500倍 2～3日間隔で散布。

下葉の黄変は、湿害で根の生育が悪くなったため根の発根を促進させることが必要です。
りん酸の多い液肥を使用して下さい。

6 だいこん

長雨によって過湿条件が長く続いていることから、裂根・亀裂褐変症状が発生しています。

(1) 亀裂褐変症対策

バシタック水和剤75 1,000倍をは種後30日目の散布を実施します。

7 ながいも

いも長、いも重ともに平年を上回っていますが、いも径が細い傾向がみられます。また、台風12号・13号からの長雨により、植溝の陥没発生が心配されますのでほ場の確認をおこなって下さい。

(1) 植付溝の陥没

植付溝の陥没が見られるほ場では、奇形いも防止のため早めに埋め戻しをおこなって下さい。

8 ごぼう

本年は長雨で収穫が遅れています。また、沖積土のほ場では、湿害で根長の生育が抑制されていますが、収穫遅れにならないように試し掘りを実施し、適期に収穫して下さい。

(1) 収穫時の注意点

ストローチョップの茎葉切断は晴天時に行い、茎葉切断後、品質を低下させないために早期の掘り取りを実施して下さい。

高温時の収穫は、乾燥して品傷みが著しいため、掘り取り直後に麻袋等で覆うかコンテナへ早めに詰めます。(品温が上がらないように注意)

9 にんじん

9月に入って、晴天と雨天が繰り返されています。黒葉枯病の多発条件となっていますので、継続して防除をおこなって下さい。また、茎葉の生育が旺盛なほ場では発病に注意が必要です。

(1) 黒葉枯病の防除

黒葉枯病

薬 剤 名	使用倍率	水量	安全使用基準		対象病害虫
		㍓/10a	使用時期	回	
ストロビーフロアブル 又は Zボルドー 又は コサイドDF	2,000～ 3,000倍 500倍 1,000倍	100	7日前	3	黒葉枯病

Zボルドー・コサイドDFは薬害軽減のためにクレフノン又はバイカルティ200倍を加用する。

10 たまねぎ

根切り作業後の長雨により、収穫作業が出来ず根の再生と肌腐れが発生しやすくなっています。根切りの2度がけと病害防除を徹底して下さい。

(1) 根切り後の防除

収穫までに10日以上の間隔がある場合は、ポリバリン水和剤1,000倍とコサイドDFで肌腐れの防除をおこなってください。

収穫直前には、トップジンM水和剤500倍～1,000倍の防除を必ず実施してください。

根の再生(根付き)防止と泥付き球の防止のために、根切りの2度がけをおこなってください。

(2) 来年の苗床作り

緑肥の鋤き込み後は、十分に分解させるためには2～3回の土壌混和が必要です。

土壌混和後は必ず早めの土壌診断を実施してください。

農作業事故を防ごう！

作業の遅れを取り戻そうとする“あせり”注意

大雨の影響で馬鈴しょ、豆収穫と小麦は種作業が重なり、心身の疲労が心配されます。一層の事故防止に努めましょう。

1. トラクタ発進・PTO始動時は、クラクションを鳴らし周囲に合図する。

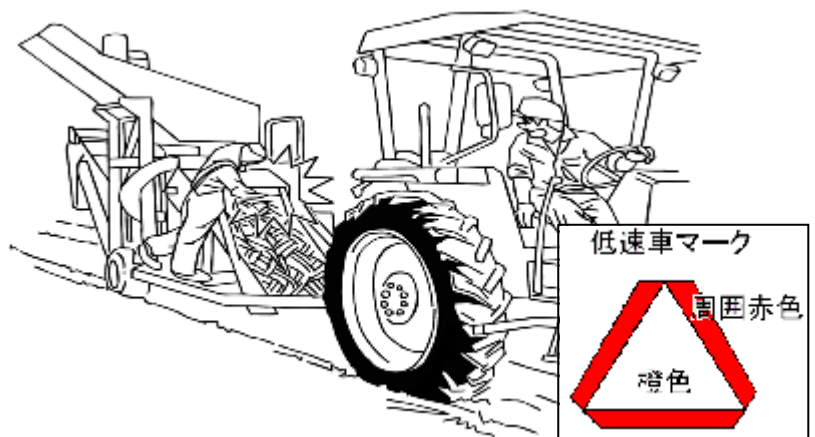
2. 機械の調整・整備時(つまり物除去等)は、必ずエンジンを止める。

3. 機械の飛び降り・飛び乗りをしない。

4. 作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、機械が降りないように、「固定脚」や「かませ木」を使い、作業機が降りないことを確認する。

5. 夕方や夜間、公道を走行する時は、早めの合図、低速車マーク

・反射シールをはり、トラクタの位置や作業機の大きさを目立つようにする。



収穫残さのほ場焼却を避け堆肥化しよう